

たまねぎ技術情報 No. 1

平成30年4月5日

たまねぎ生産者各位

J A大潟村営農支援課
たまねぎ生産組合

たまねぎの追肥及び防除について

平成30年3月27日に行った生育調査の結果は2圃場の平均で草丈6.7cm、葉鞘径0.3cm、葉数2.2葉でした。今後気温の上昇と共に成長期を迎えますので以下を参考に追肥及び防除等の管理をお願いします。

1. 追肥

☆追肥は3回に分けて行う。4月中旬以降のN成分の追肥は、病害虫の発生・倒伏の遅れ・貯蔵性の低下や腐れの原因になるため、原則行わない。

資材名	施肥量	施肥時期	備考
NK2号	30kg/10a	融雪後	成分量% 16:0:16
エレマックス (赤)	200ml/10a	4月下旬	500倍希釈を 100L/10aの割合で葉 面散布する。
エレマックス (赤)	200ml/10a	5月中旬	500倍希釈を 100L/10aの割合で葉 面散布する。

2. 除草

☆融雪後は選択性除草剤又は土壌処理剤を適期に散布する。

越冬後除草散布例

薬材名	施用量	施用時期	適用	備考
ナブ乳剤	200ml/10a	4月15日	1年生イネ科 雑草	500倍希釈液を 100L/10aの割合で雑 草茎葉散布する。
バサグラン 液剤	100ml/10a	4月15日	1年生雑草 (イネ科を除く)	1,000倍希釈液を 100L/10aの割合で雑 草茎葉散布する。
グラメックス 水和剤	100g/10a	5月1日	1年生雑草	1,000倍希釈液を 100L/10aの割合で土 壌散布する。

混
用

※高温時のグラメックスの使用は薬害がでる為、使用しない。

3. 防除

☆べと病、軟腐病、りん片腐敗病（アザミウマの吸害部から侵入）を中心に防除していく。

薬材名	施用量	施用時期	適用	備考	
ザンプロ DM フロアブル	65ml/10a	融雪後	べと病 白色疫病	1,500 倍希釈液を 100L/10a の割合で散布する。	混用
バリダシン 液剤 5	200ml/10a	融雪後	軟腐病 腐敗病	500 倍希釈液を 100L/10a の割合で散布する。	
ジマンダイセン 水和剤	200g/10a	4 月下旬	べと病 白色疫病 灰色カビ病	500 倍希釈液を 100L/10a の割合で散布する。	液肥混用
トクチオン 乳剤	100ml/10a	5 月中旬	アザミウマ	1,000 倍希釈液を 100L/10a の割合で散布する。	
ジマンダイセン 水和剤	200g/10a	5 月中旬	べと病 白色疫病 灰色カビ病	500 倍希釈液を 100L/10a の割合で散布する。	
リドミル ゴールドMZ	100g/10a	6 月上旬	べと病 白色疫病	1,000 倍希釈液を 100L/10a の割合で散布する。	混用
ディアナSC	40ml/10a	6 月上旬	アザミウマ ハモグリバエ	2,500 倍希釈液を 100L/10a の割合で散布する。	
コサイド 3000	100g/10a	6 月上旬	軟腐病 りん片腐敗病	1,000 倍希釈液を 100L/10a の割合で散布する。	混用
ジマンダイセン 水和剤	200g/10a	6 月中旬	べと病 白色疫病 灰色カビ病	500 倍希釈液を 100L/10a の割合で散布する。	
アグロスリン 乳剤	50ml/10a	6 月中旬	アザミウマ ハモグリバエ	2,000 倍希釈を 100L/10a の割合で散布する。	
コサイド 3000	100g/10a	6 月中旬	軟腐病 りん片腐敗病	1,000 倍希釈を 100L/10a の割合で散布する。	
バイオキーパー 水和剤	200g/10a	収穫前	軟腐病	500 倍希釈を 100L/10a の割合で散布する。	

※在庫をおいていない薬剤もありますので早めに予約注文をお願いいたします。